

SON-DAY, JANUARY 26th, 2014 MORNING WORSHIP SERVICE

単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship [MGF] Since Jan. 18, 2004

牧仕: 菊地 一徳(かずなり) 教会所在地: 〒381-0084 長野市若槻東条 541-2 フカサワビル2F 長野クリスチャンセンター内

☆ www.mgf-jc.com □ mgfchurch@ybb.ne.jp / 電話、郵便物は菊地宅まで 〒381-2247 長野市青木島 1-32-17 電/Fax:026-285-4713

礼拝黙想 Meditating on Worship

A 偶像を見きわめることの大切さ

自分の心と文化を知ろうとするなら、それらが影響を受けている偽りの神々を見きわめることが重要です。ローマ1・21~25で、使徒パウロは偶像礼拝を多くの罪のうちの一つとしてだけでなく、人の心が基本的に間違っている源であることを示しています。

「それゆえ、彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。…それは、彼らが神の真理を偽りと取り換え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。」(ローマ1・21、25)

パウロはこの世界で起こる悲惨や悪がその結果として起こる罪の長いリストを示しますが、どれもこの土壌、つまり断固とした「偶像生産」という人間の衝動に根付いていることが表わされます。言い換えれば偶像礼拝はいつでも私たちが何か間違った行動を起こす理由なのです。マルチン・ルターほどこれを的確に把握した人はいないでしょう。彼の『大教理問答書』(1529年)と『善い行いについて』で、彼は十戒が偶像礼拝に反対する命令から始まっていることを指摘しています。なぜ、それが最初に来るのでしょうか。彼によると、律法を破る行為の背後にある基本的な動機が偶像礼拝だからです。第一の戒めを破ることなく、他の戒めを破る、ということはないのです。なぜ私たちは、愛すること、約束を守ることに失敗し、自己中心に生きてしまうのでしょうか。もちろん、一般的な答えは、「私たちは弱く罪深い」からでしょうが、現実の様々な状況において具体的に答えるなら、何かあ

なた自身が幸せに感じなければいけないこと、神自身よりもあなたの心にとって重要なものがあるからなのではないでしょうか。人からの評価、評判、他者に対する権力、経済的な有利さなどを神の恵みや愛よりも優先するからこそ、嘘をつかなければならなくなるのです。変わりたいと思うなら、あなた自身の心にある偽りの神々を洗い出し、取り壊す作業が必須です。

〈中略〉

偶像を見きわめる

私はあなたが真の神に対する偽りの神々を持っているかどうかをただそうとしているわけではありません。私たちは皆すでにそれらを持っているからです。私たちの誰からもそれが隠されているから見えないだけなのです。ですからこう質問しましょう。「その神々をどうするのか。その神々の力に屈し続けるのではなく、どうしたらその存在をますます明らかにすることができるのか。その偶像から解放され、私たちにとっても周囲にとっても最善の、健全な決断および賢明な選択をしていくことがどうしたらできるのか。どうやって私たちの偶像を見分けたいのか」

私たちの想像することに注目するのは一つの方法です。英国大主教ウィリアム・テンプルはかつてこう言いました。「あなたの宗教とは、あなたが一人だけのときにすることだ。」言い換えると、心の内側に実際にある神とは、他の何も注意を引くことがないようなときに自然と自分の心が向かうようなものことなのです。例えば、あなたはどんな白昼夢を思い描くのが好きですか。他に何も考えることがないとき、どんなことが

あなたの心を占めているのでしょうか。どうやって昇進していけるかというシナリオを思い描くでしょうか。それともどんな家に住みたいかといった物質的な願いでしょうか。あるいは特別な誰かとの人間関係。誰にでも一つや二つ、そういった心の慰みがあるものですが、だからといって即、偶像礼拝をしているというわけではありません。それよりも、もっと習慣的に、誰も知らない自分の心の中だけで密かに、いつもどんなことを考えて悦に入っているかということ、自問してみてください。

本当に自分が愛しているものを見分けるもう一つの方法は、自分のお金の使い方に注目することです。イエスは言いました。「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」(マタイ6・21)。お金というのは、あなたの心がどこに重きを老いているかによって、自然にそちらへと流れて行きます。実際、偶像のしるしは、あるものにお金をかけすぎることと、だから常に使いすぎないように自制しなければならない、ということからも窺えるからです。使徒パウロが書いているように、もし神とその恵みが世界で最もあなたの愛するものだとしたら、宣教、慈善、貧困にあえぐ人に驚くほどの額を寄付することができるでしょう(Ⅱコリント8・7~9)。しかし実際には、私たちのほとんどが、服、子どもの教育、家や車などのステータスシンボルのためにお金を使っています。このように私たちの消費傾向は、私たちの偶像を暴き出します。

偶像を見きわめる三つ目の方法は、神への信仰を告白している者に最も有効な手段です。定期的に礼拝に出席している、教理的信念を十分に理解し深く傾倒している、神を信じ神に従うことに

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた [MGF] は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。

非常に熱心だという部類にあなたが入るとしたら、あなた自身が本当に毎日の生活で実感し、そこから生きることのできる救いとはいったい何でしょうか。あなたは、具体的に毎日、何のために生きていますか。あなたの本当の、単に口で告白する以外の、神とは何でしょうか。これを見きわめるいい方法は、答えられなかった祈り、なかなか実現しない希望に対するあなた自身の反応に注目することです。何か求めても与えられなかったとき、悲しみと失望を覚えるでしょう。それでも、前に進みます。実際人生が終わったわけではないし、そういうものがなくても生きていける、と。しかし、祈り、努力しても与えられないことで爆発的な怒りと深い絶望を感じるなら、そこにこそあなたの本当の神を見出すはず。ヨナのように、もう死んでしまいたい、と思うほど怒っているのですから。

そして、最後の方法は、すべての人に共通します。それは、最も自制できない自分の感情を見つめることです。濁っている水面のどこに行ったら魚が見つかるかを知っている漁師のように、あなたの心の奥底の最も痛みのある感情、特にどうしてもなくならない、あるいは悪いとわかっていながらそうせざるをえない衝動となる感情を見つめてみてください。怒りを感じるなら、こう自問してみてください。「ここに、私にとって、あまりにも大切すぎるものがありはしないか。何か、どんなことをしてでも持っておきたいと私が思っているものはないかだろうか」。同じように、強い恐れ、絶望感、罪悪感についても取り扱ってみてください。「なぜ、こんなにも恐れているのだろうか。私の人生でそれほど必要でない何かをどうしても必要だと思い、それが今、奪われそうになっているからだろうか」と自分に問いかけてみてください。働き過ぎで、いつでも狂ったように何かをしていないと気がすまない自分を見

出すなら、こう自分に問いかけてください。「私がこれをどうしてもしなければならぬと感じているのは、そうすることで達成感や充実感を得られるからだろうか」。そのように自問するとき、「感情をその根っこから根こそぎ引き抜く」とき、芋づる式に複数の偶像が連なって現れ出るのを見つけるでしょう。

デービッド・ポーリンソンはこう書いています。

・・・神がそれぞれの心に投げかける最も基本的な質問、それはこういうものだろう。「イエス・キリスト以外の何か、あるいは誰かに、あなたの心が事実上信頼し、没頭し、忠誠を尽くし、仕え、恐れ、喜んでいないだろうか。こういった質問は・・・私たち人間の偶像システムを表面化させる。『人生の安定、安心、受容を誰にどこに見いだそうとしているか・・・[人生から]本当は何を欲し、期待しているか。何が自分を受け入れられる人間にする、と考えているのか。権力や成功をどこに見いだそうしているのか。』このような質問は、私たちが神か偶像のどちらかに仕えているのか、あるいは、キリストか偽りの救い主のどちらから救いを得ようとしているかを、うまく探り出すきっかけになる」

〈中略〉

偶像の分類

神学的偶像—教理的誤りは歪んだ神像を生み、その結果、偽りの神を礼拝する。

性的偶像—ポルノグラフィやフェティシズムなど親密感や受容を約束するかのように見えるものへの依存、外見的な美への愛や理想を自分あるいはパートナーに求める、ロマンチックな理想主義。

魔術的／儀式的偶像—魔術やオカル

ト。すべての偶像は卓越した現実の秩序に愛と知恵をもって従おうとするよりも、それに反抗しようとする魔法といった形をとる。

政治的／経済的偶像—左派、右派、リバタリアンなど政治秩序の一側面を絶対化あるいは唯一の解決法とするイデオロギーの数々。例えば自由市場を神格化、あるいは悪の権化とする見方。

人種的／国家的偶像—人種差別主義、軍国主義、国粹主義、民族的プライドが圧力を受けて苦々しさに変貌したもの。

人間関係的偶像—共依存の関係にある機能不全家族システム、「危険な情事」、子どもに自分の夢を託す関係。宗教的偶像—道徳主義、律法主義。成功と才能への偶像礼拝。パワーハラスメントの口実としての宗教。

哲学的偶像—被造物(罪ではなく)を人生の問題だとし、また人間が作り出したもの、機関をその問題への解決(神の恵みではなく)とする思考システム。

文化的偶像—急進的な個人主義。西欧諸国に見られる。共同体を犠牲にしても個人の幸福を優先し偶像化する考え。逆に家族、部族を個人の権利よりも優先させ偶像化する恥の文化。

「根深い偶像」—何かを絶対化する動機と衝動と傾向。(A)権力の偶像「他者に権力と影響力をもってこそ、生きる意味と価値がある」、(B)承認の偶像「—に愛され尊敬されてこそ、生きる意味と価値がある」、(C)慰めの偶像「快適で一定の質の経験ができてこそ、生きる意味と価値がある」、(D)支配の偶像「この分野を極めてこそ、生きる意味と価値がある」

以上、ティモシー・ケラー著『偽りの神々』より Ω

◀ お知らせ Announcement ▶

◆ 2月の午前礼拝 2/23 (日) 10:30~

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、いっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「そしてあなたがた [MGF] は、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。